

第2学年 保健体育科 学習指導案

場 所 田野畑中学校体育館

生 徒 2年1組 (男子 11名 女子 16名 計 27名)

指導者 中村 俊介

1 単元名 器械運動 「跳び箱運動」

2 単元について

(1) 生徒について

6月の平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査のアンケートでは、「運動やスポーツをすることが好きですか。」の問いに対し、「好き・やや好き」と答えた生徒の割合は81%であった。また、体育・保健体育の授業が「楽しい」と回答した生徒の割合は34%であった。

上記の事から、運動には意欲的であるが、保健体育の授業は楽しくないと感じている生徒が多いことがわかる。授業をしていると、コミュニケーションが上手く取れずに、自分の思っていることや考えていることを伝えるのが苦手な生徒が多いように感じる。そのため、器械運動を通して仲間に考えを少しでも伝えられるようにさせたい。

(2) 教材について

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動でもある。

その中でも跳び箱運動は、踏切から着手までの動き方や着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことで基本的な技や発展技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。しかし、試技の際に自分の動きを分析し課題を見つけることは難しい。そのため、仲間と協力することで課題を発見し、その課題に応じた練習を行うため、仲間とのコミュニケーションが重要な運動であるといえる。

小学校では、開脚跳びや台上前転、抱え込み跳びの学習を行ってきた。第1学年及び第2学年では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことが求められている。また、自己の課題を発見し運動の取り組み方を工夫し自己の考えを他者に伝えることや、良い演技を認めようとする、仲間の学習を援助すること、ひとりひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康安全に気を配ることが大切である。

(3) 指導について

この単元では、基本の技から発展技までを2～3時間毎に区切りながら技の習得を目指す。また、「主体的に行動できる たのはたっ子の育成～かかわりを意識した授業づくりを通して（伝え合い・認め合い・高め合う）～」に関わって体育科では、かかわり合いを自己の課題発見の手段として捉え、グループ活動の中でチェックシートまたは映像で課題を確認し、授業の最後の振り返りでは、自分の考えを相手に伝えることを意識させながら学習を進めている。

本時では回転系の回転跳びグループの頭はね跳びの練習を行い、ペアやグループで仲間の課題を確認し合う。その際に確認シートを使用して出来栄をチェックすることで、自分自身が何ができていて何ができていないのかを把握する。その課題に応じた練習に取り組みせ、グループでアドバイスをしあいながら技能の向上を目指したい。

課題解決のための手段として、確認シートの他にタブレットで動きを撮影することで、自分の動きを客観的に確認させる。

振り返りシートを作成し、毎時間課題に対しての振り返りを行う。また、振り返り内容を、「わかったこと」「できるようになったこと」「上手いかなかったこと」「よくわからなかったこと」など、詳しい項目を提示し、生徒の学びを深める。

3 単元の目標と評価規準、指導計画

(1) 単元の目標

- ・基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うことができる。【技能】
- ・積極的に練習に取り組むとともに、良い演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができる。【関心・意欲・態度】
- ・特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解することができる。【知識・理解】
- ・課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。【思考・判断】

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・健康、安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の習得に適した練習方法を選ぶことができる。 ・自己の課題を見つけている。 ・仲間のよい動きを指摘できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技を滑らかに行うことができる。 ・着手位置、姿勢などの条件を変えて飛び越すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の成り立ちや特性について理解している。 ・技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解している。

(3) 指導と評価の計画（10時間）（太枠が本時）

時	学習内容	評価規準				評価規準
		関	思	技	知	
小学 5・ 6年	繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行う。					
1	オリエンテーション ・単元の流れの確認 ・場の設定の仕方				○	器械運動の成り立ちや特性について理解することができる。
2	開脚跳び	○				分担した役割を果たそうとしている。
3	開脚伸身跳び				○	技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解することができる。
4	かかえ込み跳び	○				器械運動の学習に積極的に取り組むことができる。
5	屈伸跳び		○			技の習得に適した練習方法を選ぶことができる。
6	台上前転	○				健康、安全に留意している。
7	首はね跳び		○			自己の課題を見つけている。
8	頭はね跳び		○			仲間のよい動きを指摘することができる。
9	発表会			○		基本的な技を滑らかに行うことができる。
10	・これまで学習した技から2つ選択する。			○		着手位置、姿勢などの条件を変えて飛び越すことができる。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・自己の課題を発見し、課題への取り組み方を工夫することができる。（思考・判断）

(2) 評価規準

評価の観点	A 十分満足できる状況	B 概ね満足できる状況	支援を要する生徒への手立て
思考・判断	・自己の課題を見つけ、課題別の練習を行うことができる。	・グループの活動を通して自己の課題を見つけることができる。	・確認シートとタブレットを使用することでつまずきのポイントを確認しやすくする。

(3) 展開

	生徒の学習活動	教師の支援 【かかわりの場面】 ○発問 ◇留意点 ◆評価
導入 6分	1 準備運動	
	2 整列・あいさつ 3 前時の振り返り	◇見学者・欠席者の確認をする。 ◇前回の学習を振り返る。
	学習課題 自分の課題を発見し、練習を工夫しよう。	
展開 37分	4 本時の技の確認 頭はね跳びの映像を見る。	◇映像を見てイメージを持たせる。 ○つまずきの映像を見てどのような課題があるのかを確認する。
	5 課題確認のための練習 練習の中で、ペアの課題を確認する。	◇お互いの練習を見て課題を見つけさせる。 ○補助の仕方など安全面に気をつけるよう指示をする。 ◇自分の考えをもてない生徒への支援 【確認シートやタブレットを使用して関わりあうことによって、つまずきのポイントや相手の課題を発見しやすくする。】
	6 課題別の練習の確認 一度集合をして課題の確認と課題別の練習の確認を行う。	◆自己の課題を発見し、運動の取り組み方を工夫することができるか評価する。(思考・判断)
	7 課題別練習 自分で選択した練習を行う。	◇人数に応じて場の設定を変える。 ◇同じグループの中で補助をしたり、課題を指摘しあう。
終末 7分	8 振り返り 本時の振り返りを学習カードに記入する。 グループでの発表・確認	◇自分の課題に対しての取り組みを振り返り仲間に伝える。
	9 次時の学習内容の確認	◇怪我をした生徒、体調を崩した生徒がいないか確認する。
	10 あいさつ	

